

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県大島郡徳之島町
- 経営体名: 株式会社永吉ファーム
- 経営概況: 肉用牛繁殖
繁殖牛452頭、子牛245頭、飼料畑30ha
- 労働力: 役員2名、従業員8人、アルバイト1人

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- Uモーション(行動管理システム): デザミス(株)
- 牛温恵:(株)リモート
- 分娩監視用カメラ(5台): (株)コア・サポート
- 哺育ロボット(5台)(ドイツファスター社製): (株)ロールクリエート

③導入の経緯

- 規模拡大に伴う、繁殖牛の飼養管理が煩雑となったことから、従前から使用していた繁殖管理ソフトに加え、Uモーションを導入。
- 毎月約30頭の分娩による、精神的、肉体的負担の軽減や分娩事故の低減のため牛温恵及び監視カメラを導入。
- 人工哺育を行っており、常時約200頭の子牛の哺乳や病気の発見・予防のため、哺育ロボットを導入。



哺育ロボット子牛ケージ



哺育ロボット及び確認用端末

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産収益力強化緊急支援事業(国)
- 畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業(畜産クラスター事業)(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 哺育ロボットでは、哺育にかかる時間が大幅に短縮し、ほかの作業にかける時間を増やすことができた。また、注意すべき子牛の情報が通知され、病気の早期発見が可能となり、子牛の事故率が低減。
- 牛温恵では、分娩タイミングの事前把握ができ、監視カメラでは、夜間の分娩の様子を監視することで、分娩対応時間の軽減と分娩事故が減少。
- 繁殖管理では、行動管理システムにより、発情等の情報が事前に知らされる。特に夜間の発情を見逃すことが少なくなり、かつ個体ごとの体調管理もできるため、受胎率が向上。(令和2年の平均分娩間隔は370日(鹿児島県は404日))
- ICT機器を導入することで、労働時間が短縮され、雇用者の就業時間が8時から17時に設定でき、雇用確保に繋がった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 島内に通信基地局が少なく、行動・繁殖管理など、連続的なネットワーク接続を必要とするシステムは使いづらい。
- 様々なICT機器を導入しているが、それぞれが独立しており、一元的に管理できるシステムがあれば、効率的に利用でき、かつ、経費も安くできると考える。



監視カメラ(移設可能タイプ)